

釧路森林資源活用円卓会議（第1回全体会）について

1. 開催日時平成26年5月26日（月）午後1時～3時
2. 開催場所釧路工業技術センター2階会議室
3. 参加人数委員16人、オブザーバ3人、事務局9人
4. 会議の概要

・釧路森林資源活用円卓会議は、川上（木材産出側）から川下（木材加工・利用側）の関係者が一堂に会し、森林資源を活用する取組について話し合いを行う会議。

・鈴木不二男座長（釧路地方林業会会長）の進行のもと、議論を行った。

・事務局である釧路市より、平成25年度の取組内容と平成26年度に取組予定の事業について説明が行われた。

【主な平成25年度の取組】（資料1）

- ・ハイブリッドログハウス工法の開発、試験
- ・木造公共施設（動物園アルパカ舎、とんけし児童センター等）
- ・木製品展示会
- ・木製品の開発、試作（パイプ椅子等）
- ・くしろ・ねむろ「木づな」の家プロジェクト
- ・各種イベントへの出展、研修会の実施

【平成25年度の取組について意見交換】

・路網の設置は非常に重要、国有林と民有林が連携した森林施業が求められる。

・ハイブリッドログハウスについて釧路発の地域材・集成材の活用、丸太組工法と在来工法の融合を目指してスタート。部材として開発した壁についても十分な強度を得られた。

・山花温泉リフレのカラマツ製ダイニングテーブルの導入をきっかけに他の店舗での導入につながった事例がある。

・学習機のFRP塗装についてこれまで使用したことがない資材で大変苦労した。最近ではカラマツの需要が多く、部材の確保も課題であった。小学校の導入事例からほかの教育施設での導入へとつながっている。

・地域型住宅ブランド化事業について、昨年度は5件の実績。カラマツを初めて使用する工務店があったなど確実に裾野は広がっている。カラマツ部材の確保について課題が残ったのが残念。

・カラマツの競争力について、家具類では価格差はあまりなく、強度の面で検討の余地がある。住宅分野では為替の影響を大きく受けている面は否定できないが現状では輸入材に十分伍していける。

【平成26年度の取組について】（資料2）

・事務局より取組開始以来5年目となる本年度までを第一期とし、本年度は第一期の集大成とするべく提案があり了承された。

・平成26年度の取組については現在継続中の各事業のほか、活動の経緯を取りまとめた冊子の発行やイベントの開催を目指すこととし、それぞれ了承された。